

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 城東区

学校名 森之宮小学校

学校長名 上山敏弘

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・学校では、第6学年 16名

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- ・国語科においては、大阪市や全国より数ポイント低くなっている。特に「書くこと」で差があり、自分の感想や意見を文章化することに課題がある。
- ・算数科においても、大阪市や全国を下回っている。基本的な計算問題は解答できているが、全般的に苦手意識が強く、特に「データの活用」に関しては、全国平均と開きがある。
- ・理科においては、昆虫の体を理解することなど、「生命」を柱とする領域はある程度できているが、「エネルギー」を柱とする領域では、全国平均を大きく下回っており、実験結果から考えたことを表現することに課題がある。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

- ・伝えたいことや聞きたいことの中心をとらえることはできている。しかし、「書くこと」に関して課題があり、参考となる意見や文章があると書けても、自分の頭の中にある言葉や思いを、自分で文章化することが苦手な児童が多い。

[算数]

- ・基本的な計算問題は定着している児童が多い。しかし、日常の単元テストではある程度の理解は見られても、長期的な定着ができていない傾向にある。

[理科]

- ・実験結果や器具の使い方や方法については理解しているが、実験結果から考察し、理由や根拠を文章化することに課題がある。

質問紙調査より

- ・少人数単学級ということからか、自分の考えを発表することへの苦手意識は低い。
- ・わからないことがあれば、そのままにせずしっかり聞こうとする態度は育っている。
- ・困っている人を助けたい、人の役に立ちたいという気持ちを持っている。
- ・いじめに対する認識は高い。
- ・自己肯定感が低い
- ・不規則な生活をしており、スマホやゲームを1日4時間以上している児童が全国平均を大きく上回っている。その結果、家庭学習が1時間以下という児童も多くなっている。
- ・読書に関して関心が低い。

今後の取組(アクションプラン)

- ・得意分野は伸ばす！ 特に話し合い活動は今後も数多く取り入れ、友達の意見や考えを聞いて考える機会を多くする。その際、友達の使う言葉に関心を持たせ、語彙力の育成に努める。
- ・無回答率が低い！ あきらめずに取り組む意欲があるので、正解を求めるだけでなく、考えた過程を言葉にする機会を増やす。
- ・スマホやタブレットが大好き！ PCを使用した調べ学習などを行い、自分の力で探求していくような学習を数多く取り入れる。
- ・協働学習を通して、友達の考えを聞くだけでなく、それに対する意見を言ったり文章化したりする機会を多く持つ。
- ・規則正しい生活習慣や、スマホ・ゲームの使用時間を限定することの大切さを、子供たちに伝えるだけでなく、学校だより等を通して保護者へも啓発していく。